

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

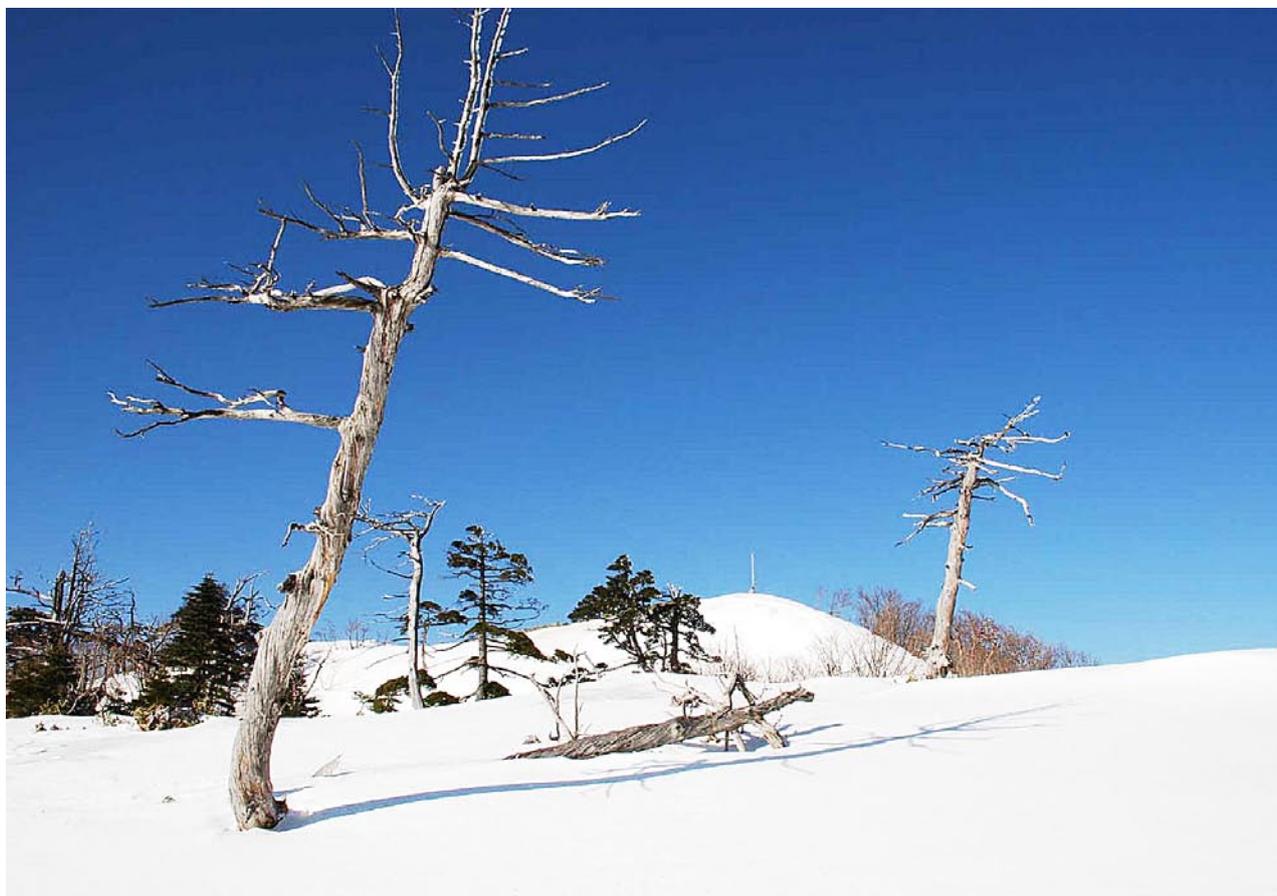
電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1114 2013年1月号

## 頌 春



厳冬期の一ノ森付近（徳島県那賀町）

# 年頭あいさつ

四国森林管理局長 新木雅之



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

振り返ると、昨年は円高の進行等を背景に、西日本を中心に木材価格が大幅に下落するなど、大きな試練に見舞われました。特にヒノキの価格はこれまでにな

価格は昨年半ばに上昇に転じているものの、その動向には今後とも注視が必要で

一方、四国の森林は本格的な利用時期を迎え、森林・林業の再生につながるためには需要拡大が大変重要ですが、本年は、高知県で大型製材工場の操業開始が予定されるなど、地域材利用の気運が高まっているところ

このような中、国有林野事業につきましては、平成二五年度より一般会計に移行することとなりました。

昭和二二年の「林政統一」以来、特別会計で企業的な運営を行って参りましたが、昨年六月に法律改正が

移行した上で、公益的機能の発揮を一層重視した管理経営を行うとともに、森林・林業の再生に向け、国有林野の組織・技術・フィールドを生かして民有林振興を支援することとしております。

四国森林管理局としても、県、市町村や関係団体との関係を緊密にしなごら、民有林と連携した森林

共同施業団地の設定を進めるとともに、地域林政を支援するフォレスター等の人材育成、市町村森林行政の支援、獣害対策の強化等に取り組んで参ります。



准フォレスター研修（現地研修）

の安心・安全を確保するための治山事業を推進します。また、路網と林業機械を組み合わせた低コストで高効率な間伐を推進し、安定的・計画的な木材供給に取り組むとともに、需要拡大に向け、間伐材の販路確保やバイオマス燃料等の需要開拓にも資するシステム販売の推進、公共建築物等の木造化・内装木質化についての各方面への働きかけ等を行って参ります。

そして、素晴らしい国有林の環境を活用し、レクリエーション、森林環境教育等の場として提供するとともに、森林・林業・木材利用の重要性に対するご理解を深めて頂くための普及活動に努めます。

一方、国有林の多くが奥地に存在し、水源涵養、国土保全、地球温暖化防止等の公益的機能の発揮が求められていることから、針広混交林等の多様な森林の育成を進めるとともに、大規模災害が続発する中、皆様

四国の国有林が「国民の



佐喜浜躍動天然杉郷土の森「大杉」の下で



森林」として皆様のご期待、ご要望に応えられるよう努力し、地域と共に歩んで参る所存ですので、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。



屋内開催となった検討会

一〇月一七日、愛媛県松野町民センターにおいて、関係機関、ボランティア団体代表等の関係者二三名が参加し、第八回滑床山植生



各地のたより

回復検討会を開催しました。

宇和島市、松野町、四万十市に跨がり、鬼ヶ城山系の人気スポットでもある滑床山（通称三本杭）山頂周辺

は、平成一二年頃からニホンジカの食害によりミヤコザサ等の林床植生が消失・裸地化したことから、平成一八年度より（独）森林総合研究所四国支所や地元自治体、ボランティア団体等の協力を得て植生の回復に取り組んでいます。

今回は現地で開催するはずの検討会が生憎の荒天となり、「日頃の行いが悪いのは・・・」と冷やかされる中での開会となりました。最初に、当センターから空撮した三本杭やタルミ、

この春、吊尾根に設置したシカ防護ネット柵、ブナ林のギャップの様子などをスライドを使って説明し、順調に回復しつつある現地の状況やこの一年間の取り組み、今後の課題等を確認して頂きました。

エリアでは減少しているように感じるが、山林では依然増加傾向にあり個体数を減らすことが重要等の意見が出されました。

また、滑床山、黒尊山の森林被害共同試験地で、ニホンジカによる森林衰退の実態解明とのニホンジカ採食圧排除による植生の回復の可能性を検証している森林総研の奥村チーム長から、剥皮害の実態やニホンジカ生息密度は依然として自然植生に大きな影響を及ぼす高いレベルにあることなどが報告されました。

愛媛県からは、篠山鳥獣保護区と滑床成川鳥獣保護区で計画している「ニホンジカ個体数調整実証事業」への協力要請がありました。

森林管理局からは、三嶺山系など天然林を中心に「ラス巻き」による剥皮害の保護や管内各地で「囲いワナ」や「箱ワナ」により捕獲していることなどを説明し、今後とも関係者が連携して捕獲に取り組むことを確認しました。

参加者からは、夜間走行中はシカの飛び出し等があり、常にシカを意識した運転をしている。シカは生活

植生が蘇りつつある滑床山山頂やタルミ、藤ヶ生越等の経過観察やシカ防護ネット柵の保守点検等に努める

とともに、拡がるギャップに柵を設置・拡大し、関係者、ボランティア等と協働して植生回復に取り組んでいくこととしています。



蘇りつつある滑床山山頂



十一月一日、地元の四万十市西土佐江川崎で西土佐地域の秋の味覚を集めた「四万十うまいもの商店

街」が開かれ、当センターの木工体験コーナーも大盛況となりました。

このイベントは、西土佐ふるさと市組合の主催で、

同地域に「道の駅」が開業する二〇一五年を前に、地域のグルメをPRしようと初めて企画され、当センターには体験コーナーでの参加を要請されたものです。

当日は、昼過ぎまでは生憎の空模様でしたが、ツガニ汁や天然アユの塩焼きなど、地域の約四〇店が醸し出すおいしそうな匂いに誘われてか、次第に混雑してきました。

当センターの木工体験コーナーも、午前中はお母さんに連れられた幼児や仲よしグループがぼつぼつ寄ってくる程度でしたが、

午後になると地元の西土佐小学校が学校行事として来場し、当コーナーにも児童がドツと押しかけ、てんてこ舞いの盛況となりました。

丸太切りしたヒノキの円盤は、職員が皮を剥ぎコースターに加工してお持ち帰り。とりわけクマのストラップは「かわいい」と大人気で、体験者は延べ一〇〇名余となりました。



大盛況の木工体験コーナー

このイベントに参加し、より地域との結びつきを深めるとともに、「四万十のうまいもの」を堪能した秋の一日となりました。



十一月十七日、四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で「黒尊まるごと満腹」と銘打って「黒尊むらまつり」

が開催され、多くの方が黒尊渓谷の紅葉と流域の料理を堪能しました。

恒例の「黒尊むらまつり」は、黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で、同会議の構成員となっている当センターは、「作って遊ぼう」コー

ナーと「八面山山登り」の担当でしたが、当日は黒尊川の清流が濁るほどの豪雨となり、山登りは中止となりました。

それでも昼頃からは雨脚も弱まり、遠く南国市からの団体客など沢山の来場者で賑わい、当センターの「作って遊ぼう」コーナーでは、クマのストラップや丸太切りを楽しんでいたできました。

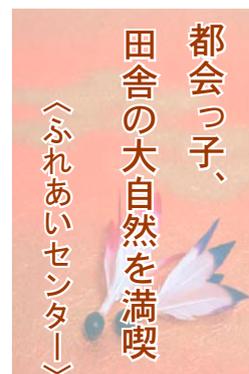
メイン会場となった親水公園では、地元奥屋内の「お菊の滝」の言い伝えにまつわる「播州皿屋敷伝説」の紙芝居上演に人だかり。また、「黒尊むら市」には、地元の食材をふんだんに使った巻き寿司、炊き込みご飯、山菜おこわ、猪汁、シカの串焼きなどが所狭しと並び、買い求める人の行

列が絶えませんでした。

溪谷の紅葉を楽しんでもらおうと企画された「神殿橋紅葉狩ツアー」も大人気で、来訪者は流域の料理を食べて、紅葉を見て、黒尊をまるごと満喫(満腹)し、十分満足されたようです。来年は皆さんも是非お越し下さい。



雨の中でも、盛況「作って遊ぼうコーナー」



一月六日、神奈川県横浜市から神奈川学園の高校生四〇名余りが八面山登山と間伐体験を行いました。初めに、高知県四万十市

黒尊山国有林に、生徒達の先輩が植樹をした箇所ので、野生動物が引き起こす樹木等への被害の現状を説明しました。するとさすが「自然との共生とは」について学習するために四万十川へフィールドワークを希望しただけあって、過疎やシカ害など中山間地域が抱えている問題について熱心な質問が続き、こちらが感心しました。

次の八面山登山では、生

黒尊山国有林での現地学習



徒たちにとっては見るもの聞くもの全てが新鮮な様子で、笑顔と笑い声、特に、ブナに吊したブランコ体験では、楽しい笑い声が絶え間なく続いていました。登山を終え、黒尊川沿いの親水公園で用意されていた昼食は、田舎飯「猪汁」と「竹飯」で、生徒たちは、「おいしい！」を連発していました。

その後の間伐体験では競

い合って鋸を挽き、木が切り倒されるたび、その迫力に圧倒され歓声を上げていました。

続いて、一月二日、中学生が炭焼き体験と四万十川周辺での森林学習を行いました。

到着早々の森林教室ということで、生徒たちの意識をうまく惹きつけられるか心配でしたが、炭焼きの説明後、材料のドングリや松ボックリを選ぶまなざしは真剣そのものでした。

出来上がりを待つ間、近くの山を散策し、野生動物害や樹種、植生について勉強していましたが、ニホンジカの糞を見つけてはパチリ、カエルを見つけてはパチリ、珍しい形の葉も撮影モデル。普段は見過ごされる四万十の生き物たちもこ

の日ばかり大モテでした。約一時間ほどで森林学習を終えると炭も出来上がっており、取り出した作品は生徒たちも驚く出来栄でした。

中学生、高校生とも半日や一日という短時間の森林学習ではありましたが、四万十の大自然に触れ、得た物は大きかったのではないのでしょうか。



間伐体験